

「全県一斉商店街まつり」開催レポート

矢口 加奈子

(埼玉県中小企業団体中央会春日部支所 主事)

(要 旨)

本レポートは、埼玉県より補助を得て、埼玉県商店街振興組合連合会（埼玉県中小企業団体中央会事務局）が主体となり、県内の 29 市町の 132 商店街が、埼玉県民の日（11 月 14 日）を中心とした 3 日間に、一斉にイベントを開催することで、商店街単独では得られない P R 効果を発揮するとともに、地域商業の活性化を図り、より多くの県民が商店街の魅力に触れる機会を創出した「全県一斉商店街まつり」の開催報告である。

目 次

1 . はじめに	37
2 . 埼玉県の商品街が一体となった取り組みを... ..	38
3 . 全県一斉商店街まつり開催の検討	38
4 . 全県一斉商店街まつり開催に至るまで	40
5 . 全県一斉商店街まつりの開催	42
6 . 全県一斉商店街まつりの効果と課題	44
7 . おわりに	45

(参考文献)

平成 23 年度経営実態調査「埼玉の商店街」

1. はじめに

埼玉県はもとより、全国的に商店街を取り巻く環境は、大変厳しいものである。近年は、インターネット販売の拡大による購買機会の多様化に加えて、消費の低迷により大型スーパーでさえも、採算が取れない店舗は、撤退を進めている状況である。今後は、人口の減少と少子高齢化の進展に伴って、その厳しさに拍車をかけるものとなるだろう。

埼玉県の『平成 23 年度商店街経営実態調査』によると、景況感は、「繁栄している」、「やや繁栄している」の合計は 3.9%と少数に留まり、前回調査（平成 18 年度）と比較して、「繁栄している」と「やや繁栄している」の合計は 4.8%から 3.9%になり 0.9%減少している。

一方、「衰退している」、「やや衰退している」の合計は 60.1%で、6 割以上となっている。

県内の商店街数を見ても、平成 13 年調査時の 1,183 商店街から平成 23 年は、950 商店街と、この 10 年間は、減少傾向にある。

このような厳しい環境を打破するために、商店街では様々な事業が展開されている。

近年は、複数の飲食店をめぐり、来街者と店とまちをつなげる「まちバル」、店主がゼミナール形式でファン作りを促進する「まちゼミ」、商店街全体を 100 円ショップに見立て、集客の呼び水にする「100 円商店街」といったイベント等の開催は、単なるにぎわいの創出だけでなく、各個店の販売促進を目的とした事業であり、商店街活性化施策の三種の神器と呼ばれている。

私は、平成 25 年度より埼玉県商店街振興組合連合会（以下、「埼玉県振連」）の事務局として、会員 19 組合に対して、商店街が抱える課題への対応等を目的とした研修会の開催、先進的な活動を行っている商店街への視察研修会のほか、商業活性化に資する情報提供等を実施していた。

平成 25 年当時、翌年 4 月には、消費税率 8%への引き上げが予定されており、商業環境は、ますます厳しさを増すものと感じていた。そうした中、様々なタイミングが重なり、埼玉県内でも初めての、全国的にも珍しい新たな取り組みを進めることになった。

埼玉県振連が県内地域商業の活性化を目指した取り組みについて、まとめていくこととする。

2 . 埼玉県商店街が一体となった取り組みを...

平成 25 年 12 月に埼玉県中小企業団体中央会(以下、「埼玉県中央会」)役員と埼玉県産業労働部との意見交換の場において、埼玉県中央会会長より、例えば、埼玉県民の日(11 月 14 日)に、県内商店街が一体となった取り組みができないか等、商業施策について意見を述べたところ、その後日、さっそく埼玉県中央会に埼玉県産業労働部商業・サービス産業支援課長が来会された。

そこで、埼玉県内の商業状況や商業支援施策、県内商店街の特色ある取り組みについて等、意見交換がなされた。今一度、意見をまとめて、埼玉県中央会が事務局を持つ埼玉県振連にて改めて事業内容を検討することになった。

3 . 全県一斉商店街まつり開催の検討

(1) 国の補助金の有効活用

ときは、平成 25 年の 12 月中旬、大変ありがたいことに新規事業の検討をしていただくことになった。県の予算編成の都合もあり、早急に事業内容をまとめて示さなくてはならない。おおよその予算額を聞いていたが、各商店街のイベント経費を捻出することは、厳しく思われた。

そこで、頭にあったのは、平成 25 年 2 月より補正予算にて講じられた国の補助事業である地域商店街活性化事業(にぎわい補助金)の活用であった。

本補助金は、国が基金管理団体として、埼玉県振連の上部団体でもある全国商店街振興組合連合会へ補助金を交付し、基金を造成し、その基金を活用して、商店街組織が地域コミュニティの担い手として実施する、継続的な集客促進、需要喚起、商店街の体質強化に効果のある取り組み(ソフト事業)に対して補助を行うものである。

補助率は、1 商店街に対して、400 万円を上限とした全額補助であり、消費税率の引き上げを見据えた商店街の集客及び販売力の向上を目的としたものであった。

埼玉県振連では、本補助金の受付窓口として、電話等による質問の受け付け、補助金周知のための説明会の開催に加えて、受け付けた申請書の体裁を整える等の事務処理支援を行っていた。

商店街は、大変厳しい状況にあると、冒頭に述べたが、集客の向上はもとより、地域の活性化のために、各商店街は、趣向を凝らしたイベント等の計画がなされていた。

また、平成 24 年度補正地域商店街活性化事業の採択件数は、全国 1,813 件中、埼玉県は、71 件(うち、埼玉県振連会員 13 件、法人商店街 10 件、任意商店会等 48 件)で、

全国7位の採択件数であり、改めてがんばる商店街の多さを感じていた。

しかし、申請書を見ると、多くの商店街において、イベント開催における広報の計画は、チラシやポスター、のぼり等の作成をして地域住民へPRを行うことや、新聞への折り込みチラシによる広報がほとんどであった。

そこで、本補助金を各商店街が活用して、埼玉県民の日を中心とした日程(11月14日、15日、16日)において、県内の商店街が各地でイベントを開催する連携を行い、埼玉県振連において、大々的に広報を行うことで、イベントの効果をより大きく発揮することは出来ないかと考えた。

(2) 県内商店街の一体感を醸成するために

統一テーマの設定

事業名は、「全県一斉商店街まつり」として、より一層のにぎわいを創出できるようなイメージとした。

そして、単に商店街各地で埼玉県民の日にイベントを開催するだけでなく、統一したテーマを持ち、商店街が一体となった取り組みの方向性を打ち出すことにした。

しかし、各商店街は、周辺環境や商業者の構成などがそれぞれ異なっている。商店街の課題は、各商店街により様々であり、絞られた統一のテーマを掲げることは、難しい。

そこで、大きなテーマとして、埼玉県民の日は、地元商店街が舞台となって、人と地域と県内商店街同士が一体となり、つながり、広がるようなイベントとなるよう、「つなぐ」とした。

全県一斉商店街まつり統一ロゴの作成

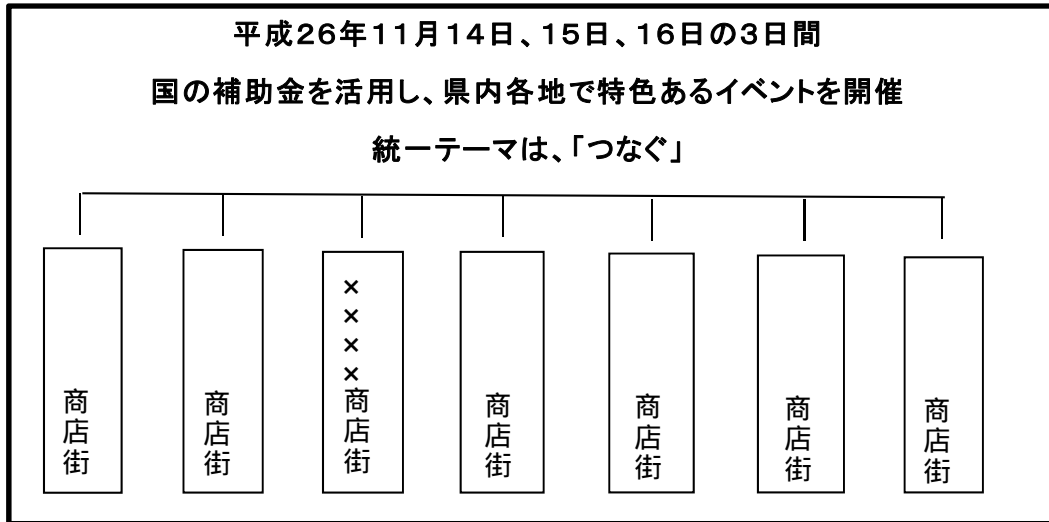
埼玉県振連にて、全県一斉商店街まつり参加商店街のイベント内容を記載したチラシ、ポスターの作成を検討していたが、各商店街自身でも、チラシやポスターの作成を行うため、全県一斉商店街まつりに参加する商店街が一体感を醸成できるよう、統一のロゴを作成し、参加商店街にロゴデータを配布して、活用してもらうことにした。



全県一斉商店街まつり統一ロゴ

全県一斉商店街まつり

目的 埼玉県民の日より3日間、県内の商店街が一斉にイベントを実施することで、県下全域でより多くの県民が商店街の魅力に触れる機会を創出して地域商業の活性化を図る。



主催：埼玉県商店街振興組合連合会
(後援・事務局：埼玉県中小企業団体中央会)
埼玉県より補助を受けて、参加商店街の取りまとめ、広報の実施

4. 全県一斉商店街まつり開催に至るまで

(1) 全県一斉商店街まつりへの参加を募る

年が明けて、平成26年1月、事業の概要が少しずつまとまってきた。なにより大きな課題は、多くの商店街の参加を募ること(=地域商店街活性化事業補助金の採択をとること)であった。

まずは、全県一斉商店街まつりの開催周知と、地域商店街活性化事業の活用周知であった。埼玉県中央会並びに埼玉県振連の会員をはじめとした県内商店街組合と、平成24年度補正地域商店街活性化事業の採択を受けた商店街に対して再応募の案内通知のほか、市町村、商工会議所、商工会へ対して、地元商店街へ対する支援依頼の文書を送った。加えて、県内の商業支援に注力されている中小企業診断士等の先生方への協力依頼も行った。

また、引き続き、埼玉県振連では、地域商店街活性化事業の受付窓口であっ

たため、補助金に関する相談がある度に、全県一斉商店街まつりの趣旨・概要を説明し、参加依頼を行い、正式な申請の前に必ず書類のチェックをした。

そして、商店街より了解を得て補助金の申請書類に全県一斉商店街まつりの概要等をまとめた文書を同封するようにした。

とにかく、参加したいと手を挙げていただいた商店街に対して、漏れがないように、多くの商店街に参加していただけるように対応していった。

(2) 全県一斉商店街まつりの広報周知等

「全県一斉商店街まつりへの参加商店街の募集について」(5月)、「全県一斉商店街まつりへの参加商店街の決定」(8月)、「全県一斉商店街まつり参加商店街のイベントの詳細について」(10月)と計3回のプレスリリースを実施した。

また、10月のプレスリリースは、知事による定例記者会見と同日に行い、知事自ら県民の日の記念事業の紹介のあと、本事業の説明をしていただいたことで、メディア等への周知につながった。そのほか、県内各地のコミュニティ新聞社を調べ上げ、地元商店街への取材依頼を行った。

広報物は、開催周知ポスターを1万部、参加商店街名とイベントの内容や開催地等を掲載したチラシを10万部作成し、参加商店街に配布した。その他、一般社団法人埼玉県バス協会に協賛いただき、バスの中吊り広告を実施できたことは、大変ありがたかった。

また、地元FMラジオ局にて、ラジオCMを流して、広く県民に向けてPRを実施した。埼玉県民の日の当日まで、とにかく少しでもイベントの注目度を高めるために、出来る限りのことをしていった。

(3) 商店街の逸品が当たる抽選の実施

全県一斉商店街まつりイベントへ足を運んでいただいた特典として、商店街の逸品等が当たる抽選の実施を計画した。商店街イベントだからこそ、やはり県内の商店街の自慢の品が良いと考えたが、限られた予算の中、調整に大変苦慮していた。

参加商店街に伺い、打診したところ、快くご協力いただき、お米・お茶・お酒といった賞品が決定した。

応募方法は、はがきに全県一斉商店街まつりイベントに足を運んでいただいた「感想」や「地元商店街への応援メッセージ」等を記載して、埼玉県振連宛てに送付していただくことにした。イベント参加者の生の声を商店街へ届けるためだ。

(4) 関係各所への協力を得る

全県一斉商店街まつり実施にあたり、関係各所にて後援をいただいたほか、一般社団法人埼玉県トラック協会、一般社団法人埼玉県バス協会、商工組合中央金庫、埼玉りそな銀行、武蔵野銀行、埼玉縣信用金庫より協賛をいただいた。

4 金融機関におかれては、地域商店街活性化事業補助金は、事業終了後の精算払いであるため、補助金交付までのつなぎ資金制度を創設され、県内商業の活性化に尽力いただいた。県内商店街より、「大変助かった」との声も聞いている。

また、各市町村においても、ホームページや市報等に全県一斉商店街まつりの開催周知を掲載いただく等、大変ありがたいことに多方面からご協力をいただいた。

5. 全県一斉商店街まつりの開催

(1) 特色あるイベントの開催

最終的に 29 市町の 132 の商店街が参加し、埼玉県民の日から 3 日間、特色ある様々なイベントが県内各地で開催された。その中で、趣向を凝らした取り組みを紹介したい。

協同組合飯能銀座商店街：「ぎんざ 100 円結婚式」

本商店街は、埼玉県内で初めて 100 円商店街を実施した商店街である。埼玉県の日に合わせて、100 円商店街と、「100 円結婚式」を同時開催。結納の品から、引き出物、ウエディングケーキまで商店街会員の品で準備し、商店街の車道を結婚式場にして、商店街と多くの来街者で 2 人の門出を祝福するというもの。

費用は、100 円商店街にちなんで、驚きの「100 円」。事前応募により選ばれた 20 代のカップルの新郎は、市内の高校出身で、商店街を通り通学していたという。

式の当日は、商店街会員が心を込めて準備した折り鶴 5,000 羽を来街者に配布して、折鶴シャワーで祝福した。

心温まる企画は、商店街だからこそ出来たものである。NHKをはじめ、多くのメディアに取り上げられた。

また、本イベントに参加された市内の女性から、「結納からウエディングケーキまで、『すべて商店街のお店でそろえています』と話していました。来た人全員にお茶や、たる酒が振舞われ、あたたかい商店街だと思いました」と、埼玉県振連宛に、商店街イベントの感想も寄せられた。

この他、近隣商店街と合同でセールイベントを開催し、販売促進をより高める工夫を行ったイベントや、例年実施している「街バル」を親子で楽しめる工夫を行うなど、様々なイベントが開催され、商店街、地域の魅力を発信した。

以下は、全県一斉商店街まつり参加商店街の実施イベントのまとめである。

参加商店街数	132 商店街、96 商店街が国補助金採択(総額約 9,400 万円)
実施イベント数	53 事業
主なイベント内容	・街バルなどのグルメイベント 10 事業
	・ライブなどの音楽イベント 7 事業
	・ワンコインセール 5 事業
	・スタンプラリー 5 事業
	・その他(子供縁日、まちゼミなど) 26 事業

(2)「県庁オープンデー」での商店街PR活動

埼玉県民の日、埼玉県庁では、「県庁オープンデー」として、県庁を開放し、庁舎内を自由に見学でき、県内のB級グルメが味わえるなど、様々な催しが開催される。

そこで、埼玉県知事等参加による全県一斉商店街まつり開催セレモニー(くす玉の開披)を実施した。知事自ら、「商店街で買い物をしたらお得ですよ」と呼びかけをしていただいた。

また、県庁内に商店街ブースを設置して、県内商店街のPRと、2商店街が商店街オリジナルブランド商品の出張販売を実施した。用意した商品が、早い時間に完売するなど大変盛況であった。

6. 全県一斉商店街まつりの効果と課題

(1) 効果

参加商店街からのアンケート結果

全県一斉商店街まつり開催後、参加商店街に対し、アンケートを実施した。3日間の集客数は、述べ216,645人で、通常のイベント実施時と比較して集客が、「増えた」と回答した商店街は、66%と過半数以上の商店街が、その効果を実感している。売上についても通常のイベント実施時と比較して「増えた」との回答が、51%と販売力の向上に寄与したことが伺える。

その他、「予想以上に子どもが来場してくれてびっくりした」、「テレビ、報道各社から取材があった」、「宣伝等がスムーズにできた」、「遠方からの来街者が増えた」等の回答があった。

国の補助金の活用

地域商店街活性化事業を活用し、全県一斉商店街まつりへ参加を検討していた商店街は、全て採択となった。補助金は、新規性といった取り組みが審査項目の一つとされていた。

全県一斉商店街まつりへの参加をはじめ、埼玉県振連にて、細やかな申請書類の確認等を行ったことが、国の補助金を多くの県内商店街に有効に活用してもらえることにつながったものと思われる。

メディアへの露出増

埼玉県振連に、NHKをはじめ、地元テレビ局や新聞社等の複数のメディアから問い合わせがあり、イベント開催前後には、多くのメディアに取り上げていただいた。商店街が単独でイベントを実施するだけでは、得られないPR効果を大いに発揮できた。

特に、開催日を県民の日にしたことで、大きな効果が得られたものとする。埼玉県では、県民の日は、多くの公立の小中学校は休みとなり、県内の施設等が無料開放される他、記念事業が開催される等、様々なイベントが行われる。その中で、商店街へ足を運ぶ機会を創出できた。

そして、県民の日に多くの商店街が一斉にイベントを行う取り組みは、全国的にも珍しく、埼玉県振連が効果的に広報を実施したことで、話題となったと考える。

(2) 課題

資金の手当て

開催の継続を考えると、第一に、資金面の課題が挙げられる。平成26年度は、全額補助という国の補助金を活用することで、各商店街は、大きなイベントを実施することができた。アンケートの要望でも、「補助金がないと厳しい」との回答が多数見られた。県・自治体による協力のほか、商店街自身の自助努力も求められるかと思う。

埼玉県振連としても、本事業の有効性を自治体に働きかけるとともに、補助金に頼らないイベント等の工夫を示す支援が必要である。

各商店街のPR方法の支援

通常のイベントと比較して、来客が増えなかったイベントが11事業あった。いずれも、メディア等の取材を受けられなかった事業である。例えば、地域別に細かなPRを行う等、支援の必要があった。

また、来客の増加の割に、売上が伸びなかったイベントが7事業あった。来客を売上に結びつけるための商店街のイベントの在り方や、各個店のPR強化のための支援も必要と感じた。

強固な一体感の醸成

アンケートでは、スタンプラリー等の、商店街同士を強固に結ぶ取り組みが求められ、その検討が大きな課題と感じた。また、参加商店街は、他の商店街イベントを知る機会がなかった。有益な事業をひとつのモデルとして、県内商店街へ横展開できるような取り組みも必要である。

7. おわりに

現在、商業支援策の多くは、取り組みの具体的な効果を出せず、行き詰まり感も否めない。

「全県一斉商店街まつり」の開催は、商店街自身が悩み、課題へ立ち向かう取り組みを一体となって盛り上げ、後押しするものであった。

商店街へもたらず環境が刻々と変化する中、各個店の変化対応や魅力の創出・発信への取り組みに加えて、地域で生きる商店街の運営を模索し、価値を見出していく。簡単な答えは、ないのだから、様々な方策を打ち出し、絶えず悩み続けるしか術はないのかも知れない。自身も改めてかみしめて本レポートのまとめとしたい。

最後に、全県一斉商店街まつり開催にあたって、埼玉県産業労働部商業・サービス産業支援課の手厚い支援をはじめ、関係各所の皆様、そして、県内商店街の皆様の多大なご協力、ご理解をいただきましたことを厚く御礼申し上げます。

全県一斉商店街まつり参加商店街

132 商店街（重複は含まず）

市町村	商店街名	市町村	商店街名
さいたま市	県庁通り商友会	鴻巣市	鴻巣市商店会連合会
	商店街振興組合高砂共栄会		人形町繁栄会
	県庁通り商栄会		元市商店会
	コルソ商店会		さくら商店会
	商店街振興組合浦和銀座誠商會		中央通り繁栄会
	仲一街商店会		いしばし商店会
	さいたま北商工協同組合		御成町商栄会
	浦和中央商店街振興組合		宮本東通り商店会
川越市	南浦和西口商店会	深谷市	深谷商店街連合会
	コスタ浦和商店会		稲荷町共栄会
	前地通り商店会		西島商友会
	マーレ商店会		仲町勉強会
熊谷市	川越サンロード商店街振興組合	草加市	深谷商業奉仕会
	川越新富町商店街振興組合		わいわいロード商店街振興組合
	熊谷市商店街連合会		新田ふれあいロード商店街振興組合
川口市	星川通り商店街振興会	越谷市	新田西口商店会
	熊谷駅西通り商店街振興組合		新田横丁商店会
	熊谷市大露路商店街振興組合		越谷中央商店会
	川口銀座商店街振興組合	蕨市	越谷新町商店会
	鳩ヶ谷商店会連合会		北越谷商店会
	グリーンサンロード商店会		大沢商店会
	東公園通り商店会		大沢三丁目商店会
	川口市桜町商店会		塚越商店会
	鳩ヶ谷市本町商店街振興組合		蕨銀座商店街協同組合
	坂下町商店会		蕨中央一番街商店会
	三ツ和商店会		中央商店街御殿町3丁目商和会
	天神橋通り商店会		中央商店街共福会
	辻永堀商店会		中央商店会Gロード
	南鳩ヶ谷駅商店会	中央商店街中央5丁目御殿商店会	
	八幡木商店会	中央商店街中央5丁目御殿商店会	
	川口市芝地区商店会連合会	中仙道蔵宿商店街振興組合	
	芝一丁目商店会	戸田市	戸田中央商店会
	芝銀座通り商店会	入間市	アポボ商店街振興組合
芝三栄商店会	志木市	西武入間グリーンヒルショッピングプラザ	
芝中央通り商店会	久喜市	べあもーる商店会	
芝園ハイツ商店会	八潮市	栗橋ひめプラザ協同組合	
芝富士商店会		けやき通り商店会	
芝みゆき通り商店会	富士見市	富士見市商店会連合会	
前川中央商店会		鶴瀬駅西口通り商店会	
みやのかわ商店街振興組合		あけぼの商店会	
番場商店街振興組合		東みずほ台商店会	
秩父市商店街連盟連合会		西みずほ台商店会	
みやのかわ商店街振興組合		寺下商店会	
番場商店街振興組合		水谷中央商店会	
上野町商進会		つるせ西商店会	
東町商店街協同組合		つるせ台商店会	
KSA影森名店会		権平山商店会	
相生町商工親睦会	鶴瀬西3丁目通り商店会		
本町商栄会	つるせセーフティロード商店会		
中町商栄会	鶴瀬西銀座商店会		
上町商栄会	鶴瀬東口駅前商店会		
所沢市	所沢和ヶ原商店街振興組合	上沢商店会	
	所沢ファルマン通り商店街	鶴瀬駅前通り商店会	
飯能市	飯能市商店街連盟	三郷市	みさと団地センターモール協同組合
	飯能大通り商店街協同組合	幸手市	中央商店会
	飯能中央通り商店街協同組合		仲町商店会
	協同組合飯能銀座商店街	ふじみ野市	上福岡駅前名店街
協同組合飯能銀座商店街	本通り商店会		
中心市街地スタッフ会議	上福岡一番街商店会		
加須駅通り商店会	富士見通り商店会		
加須ぎんざ商店会	上福岡駅前名店街		
加須一番街商店会	上野台銀座商店会		
千方商店会	武蔵野商店会		
加須市本町商店会協同組合	八雲通り商店会		
元町商店街	上福岡銀座商店会		
加須中一大通り商店街	霞ヶ丘商店会		
東松山市	東部地区商工協議会	西口商店会	
春日部市	春日部市商業協同組合	中央通り商店会	
	桜台商店会	三愛会商店会	
狭山市	入間川七夕通り商店街	小川町	小川町停車場通り商店会
		小鹿野町	パンビサービス協同組合
		寄居町	ふるさと寄居商店会
		杉戸町	杉戸中央商店会
			杉戸高野台商店会

【全県一斉商店街まつりイベントの様子】

(1) 全県一斉商店街まつりオープニングセレモニー



上田清司埼玉県知事による挨拶



くす玉開披後の集合写真

(2) 県庁オープンデー出張販売(商店街オリジナルブランド商品の販売)



中仙道蕨宿商店街振興組合(蕨市)
宿場どら焼き・双子織物グッズの販売



前川中央商店会(川口市)
前川メンチの販売

(3) 参加商店街イベントの様子(8イベント抜粋)

【南部地区】



浦和中央商店街振興組合（さいたま市）

「浦和宿古本まつり」



川口銀座商店街振興組合（川口市）

「彩の国・KAWAGUCHI@樹モール・神根 Mini Festa」

【西部地区】



川越新富町商店街振興組合（川越市）

「第11回ちんどんフェスティバル」



協同組合飯能銀座商店街（飯能市）

「ぎんざ100円結婚式」

【東部地区】



わいわいロード商店街振興組合/新田ふれあいロード商店街振興組合/
新田西口商店会/新田横丁商店会 4商店街合同(草加市)
「新田フォーリングラヴ商店街」



みさと団地センターモール協同組合(三郷市)
「やんちゃ祭」

【北部・秩父地区】



みやのかわ商店街振興組合(秩父市)
「秩父銘仙フェスティバル」



番場商店街振興組合(秩父市)
「秋の表参道まつり おいらん道中」



大型商業施設の進出や通信販売の拡大を背景に、地域に身近な商店街は衰退の一途にある。厳しい逆風をはね返そうと、県商店街振興組合連合会は14日の「県民の日」から18日までの3日間、県内の商店街がそろってイベントを開催する全国初の取り組み「全県一斉商店街まつり」を実施する。県内各地で同時に開催してにぎわいを生み出すことで、地元に根付く商店街の魅力を住民にPR、再認識してもらおうのが狙いだ。(中野えみり)



2014年11月13日 木曜日
(平成26年)

あすから全県商店街まつり

県内商店街数の推移



■衰退する商店街
県内の2011年度商店街振興調査によると、県内の商店街数は01年の1183をピークに減少傾向が続き、11年11月9日現在で950にまで減少。10年間は3.6%増と堅調に市場を拡大して3の商店街が姿を消した。
一方、県内に進出している大型店の総数は07年現在、10036店。県内の総店数(3万8673店)のうち、半数を超える89件が理由として「お客が減少した」「若い客層が減少した」「売り上げが減った」が理由で閉店した。また、閉店件数は前年より約1.5倍増との見込みだ。閉店件数の増加も、閉店後の店舗の再利用が課題となっている。

132カ所で独自イベント

■人目を「つなぐ」
地元商店街として「若い人たちが来ないのも悩みの種だ。新たな客を増えたいには、リベーターは必要だ」と話すのは、むすびの理事長佐藤浩一氏だ。佐藤氏は「若い人が来ないのは、店舗の魅力をアピールする必要がある」と指摘する。佐藤氏は「若い人が来ないのは、店舗の魅力をアピールする必要がある」と指摘する。佐藤氏は「若い人が来ないのは、店舗の魅力をアピールする必要がある」と指摘する。

低迷打破へ魅力発信

乗斥

店門

126.11.14 読売

(第3種郵便物認可)

132商店街一斉イベント

「農民の日」の14日に合わせ、県内132の商店街は「全県一斉商店街まつり」を初めて開催する。県内の商店街が足並みをそろえてイベントを行うのは全国的にも珍しい。

まつりは14、15、16日の3日間。県内29市町の商店街が参加する。商店街での食歩歩きや飲み歩きを楽しむ「街バル」、色鮮やかなイルミネーションやスタンパラリー、ダンスイベントなど商店街ごとにイベントを行う。

秩父市商店街連盟連合会はこのイベントのために開発した一口コロッケを販売。飯能市の協同組合飯能銀座商店街では若い男女が結婚式を挙げるというユニーク

▽全県一斉商店街まつりが開催される商店街がある市町は次の通り。さいたま、川越、熊谷、川口、秩父、所沢、飯能、加須、東松山、春日部、狭山、鴻巣、深谷、草加、越谷、蕨、戸田、入間、志木、久喜、八潮、富士見、三郷、幸手、ふじみ野、小川、小鹿野、寄居、杉戸

きょうから3日間



全県一斉商店街まつりの共通ロゴ

なイベントが開かれる。最大で1200万円が地域商店街に交付される国の「にぎわい補助金」を活用する。イベントは県商店街振興組合連合会が昨年12月、県に打診して実現。96の商店街に約9400万円

の補助金が交付された。商店街の全国組織である全県商店街振興組合連合会は「同じ日に132もの商店街が同じ動きをするというイベントは全国でも聞いたことがない」と驚く。

14日に「県庁オープンデー」を開催する県も県商店街振興組合連合会にPRなどの経費として280万円を補助している。上田知事は「同じ買い物をするのであれば商店街で買った方がお得ですよ」とPRす

る。県商業・サービス産業支援課は「商店街がにぎわうことで、地域の活性化につながる。多くの人に足を運んでもらい、商店街の魅力を感じてほしい」と呼びかけている。

商店街まつりの情報は同連合会のホームページ（<http://www.salkunl.or.jp/sashin/>）。

